

【4月新採教師になる大学生からの投稿】

私という人間が子どもたちと不器用ながらぶつかっていきなかなかで…

鈴木友夏（仮名）

4月から念願叶い、教師として先輩方の仲間に入れさせていただけることとなりました。幼少の頃から思い抱いていた職業ということもあり、喜びも大きく、期待もいっぱい膨らんでいます。しかしそれと同様に、不安もまた大きくあります。

教師との出会いは子どもたちに大きな影響を与えるものだと思います。私が教師を目指したきっかけもひとりの先生との出会いでした。音楽の授業を本当に楽しく実りのある時間にしてくれた先生を見て、「私もいつかこんなふうに音楽を多くの人に伝えられたらいいな」と考えたものです。多くの出会いを重ねるにつれ、「先生」にもいろいろな人がいることを子どもなりに感じました。いじめにあつたとき、親身になって話を聞いてくれる先生もいれば、その場をごまかすように対応をした人もいました。あの時の気持ちは今でも忘れることができません。そしてこれらの経験から、教師という仕事について深く考えるようになり、一浪しながらも現在の進路に決定したのです。

しかし大学で勉強を進めていくうちに、不安が生まれました。私は人見知りをしてしまうタイプでしたし、人前で話すことも苦手です。感情を表に出すことも苦手で、学校生活では苦勞した経験もあります。「こんな私なんかには教師ができるだろうか」と悩み、この道をあきらめようかとも考えました。しかし教育実習や学校訪問ボランティア、また同じ道を目指す仲間とそれをサポートしてくださる先生たちとの交流を通し、「こんな自分だからこそ」という気持ちに変わりました。私は「勉強」を教えたいのではなく、それぞれその教科の学習や生活を通じて、その先にあるものを伝えたいと思ったのです。もちろんそれがどれほど難しいことかは理解していません。机上の空論になってしまいかもしれませんが、私という人間が子どもたちと不器用ながらぶつかっていきなかなかで、なにかを感じ取ってくれば、それはとても幸せなことなのではないかと思うのです。

教師生活は地元（愛知県外）に戻ってすることに決めました。教育実習は地元でしていませんし、知り合いもいません。おそらく教育現場も多少なりとも私が在学していた時から変わっていることと思います。不安はいくつあげても際限なく出てきます。ですが、私がかどのような教師となり、どう子どもたちと接していきたいかということだけは忘れず、これから進む道への一歩を踏み出したいと思います。（二〇二二年三月一八日）

\*\*\*

投稿余話

鈴木さんとの出会いは、私が担当する授業（1年時・教育学）でした。4年生になってからは私の授業アシスタントとして、後輩にさまざまな助言をしてくれました。4年間、機会があれば、自分の意見を率直に表明してくれた学生でした。新採教師になるにあつての思いを原稿にしてほしいとお願いしたところ、寄せてくれたのが右記の投稿です。

これから始まる教師生活がどんなに困難であっても、ありのままの自分という人間で「子どもたちと不器用にぶつかりながら」、何かを学びとってほしいものです。それが若い教師の成長に欠かせない体験になります。

山口 正（大学教員）